

2023（令和5）年度 学校自己評価報告書

愛媛大学附属高等学校
令和6年3月31日

教育目標	総 括
・確かな学力を持ち、学びに対する高いモチベーションを持つ人材の育成 ・豊かな情操を培い、明朗闊達で、心身共に健康な人間の育成	本校は、「学びに対する高いモチベーション」「地域を担う意欲」とそれを支える「確かな学力」を育て、「生きる力」を愛媛大学と連携して培い、高度で国際通用性のある教育により、未来を拓く人材育成に努めた

内 容	具体的な目標	評価	成果(○)と課題(△)	改善策
教育課程	○生徒の卒業後の進路を見通した一貫性のある教育課程の編成を行う。 ○生徒が主体的に選択履修できるような教育課程の編成を行う。 ○学校設定教科・科目を設置し、総合学科としての特色ある教育課程の編成を行う。	A	○1, 2年生が新教育課程となり、3年次には大学受験に対応できる教育課程を編成しており、生徒は受験に必要な科目を選択できている。 △普通科と比べ、受験に必要な単位数が少ない。	・高大接続授業がある関係で、受験に必要な科目の単位数を確保するのが難しいため、抜本的な変更を行ない限り改善は難しい。
教科指導	○確かな学力や学びへの高いモチベーション〈学びの力、学んだ力、学びの表現力〉を持たせるため、指導方法の工夫をする。 ○新学習指導要領を念頭に置いた、主体的・対話的で深い学びが実現できるような授業を目指す	A	○評価の方法が各科目3観点によるABC評価となっており、平常の授業の中で評価と指導を繰り返し実施できている。 △生徒にとっては、評価の改善のためにどのような学習に力を入れるべきかわかりづらい場合がある。	・生徒へ評価基準や、評価のタイミングなどを各講座にて説明し、生徒へ周知する必要がある。 ・課題の提出を確実にを行い、基礎学力の向上を行うことで、さらなるモチベーションへつなげることができる。
生徒指導	○基本的生活習慣の確立を徹底させ、社会性や自主性を身につけさせる。 ○心身共に健康な生活習慣を身につけさせる。	A	○新しい校則になり、その場に応じた身だしなみを心がけることができた。 △校内でのスマホなどの使い方において、不適切な使用があった。	・実情に合った校則に向けて柔軟に対応していく。 ・生徒が主体的に正しい行動がとれるよう、様々な場面で啓発していく。
安全指導	○日々の学校生活の中で、安全面に留意した行動を確立させる。 ○道路交通法を理解した上で、安全運転を实践させ、かつ徹底させる。	A	○自転車のマナーやルールを順守する生徒は多い。 △重大なケガなどはなかったが、登下校中に数件事故が起ってしまった。	・外部からの交通安全教室などを行い、交通安全に対する意識を高める。 ・生徒だけでなく、大人も率先して正しい交通マナーを心がける。
特別活動	○学校行事などの特別活動を通じて、望ましい人間関係を形成する。	A	○通常開催の行事が増え、どの行事も協力して取り組む生徒が多かった。 △運動会や愛附祭などで、さらに学校の特色を出していたらよかった。	・多くの意見を取り入れ、全員が輝ける環境を作り、一人一役の活動を実践する。 ・内容を一から見直し、時間をかけて準備をするよう心がける。

保健衛生	○心身ともに健康的な生活習慣の育成を行う。 ○健康と安全に関する意識の高揚と実践力の育成を行う。 ○校内清掃の徹底と環境美化の推進を行う。	A	○保健委員を中心に教室の換気や手指の消毒等、感染症対策の呼びかけができた。 △健診後の受診勧告を2回行ったが、受診率向上に繋がらなかった。 ○男女トイレ清掃監督の教員配置を見直した。ごみ分別所の環境整備を徹底した。	- 基本的な感染症対策を継続して徹底する。 - HR 担任に協力を依頼し、受診勧告後の受診状況を把握し、未受診生徒への勧告を継続して行う。 - 教員が声掛けを行い、ごみの分別や環境美化についての意識の高揚を行う。
高大連携	○大学の教育内容を知り、将来のテーマを探究させる。 ○テーマ別の講義を通じて、地域への意識を高めさせる。 ○高大連携授業を通じて、大学への理解を深めさせる。 ○大学の授業を受けさせることで、大学の学びを経験し、充実した大学生活を考えさせる。 ○大学教員の指導のもとで、課題研究を行うことで、自らの興味・関心・適性を認識する。	A	○各担当大学教員から大学の教育内容や専門性の高い講義とSDGsの取り組み等について紹介いただいた。 ○本年度より対面授業を再開し、アクティブラーニングによる課題解決学習も復活し、生徒の △リベラルアーツは、非同期型のオンラインでの実施のため、生徒は各自でイヤホンによる受講となった。学年団より授業の成果に疑問が出た。 △カリキュラムの変更から3年、課題研究において矛盾点等が浮き彫りになっている。	- 引き続き、大学教員と連携し、高大連携授業の特色を活かした取り組みを行う。 - 地域への意識を高めさせる授業内容について大学教員と十分な打ち合わせを行う。 - 高大連携授業のメリットを生徒に周知させる。 - 大学から、リベラルアーツに代わる講座を検討していただいている旨の連絡を受けた。 - 課題研究WGを立ち上げ、再来年度に向けて、実情に合った課題研究を実践すべく検討している。
教育相談	○生徒の抱える諸問題の解決・改善に向けて、本人・保護者・教師への助言、指導などの援助を行う。 ○附属学校園と連携を取りながら、特別支援教育の強化を図る。	A	△SC、養護教諭、専門機関、愛媛大学、特別支援学校と連携し、生徒の抱える諸問題解決に向けて迅速な対応を心がけているが、連携が十分でないこともあった。 ○教員研修会を実施し、高校卒業後の特別な教育的ニーズへの対応について理解を深めた。 ○定期的な情報交換の場を設定し、全教職員で生徒の共通理解に努めた。	- 引き続き、学年主任、担任と連携し、気になる生徒についての情報把握を迅速に行い、SCや養護教諭との情報共有を密にする。 - 教員に対して、合理的な配慮の提供の具体例や支援に役立つ教材教具の紹介を行うなど、より実践的な支援の在り方の研修や助言を行う。

進路指導	○適正な進路を自主的に選択決定できる能力を養い、その進路実現に向けて努力させる。 ○愛媛大学の附属高校という特性を活かし、大学と連携した教育(高大連携プログラム)を推進し、生徒の進路実現を図る。	A	○進路ガイダンスなどの外部と関わる機会を増やした。低学年次から模試結果の解説会を開催した。 ○スタディサプリやClassiなどのアプリを導入し、家庭学習の充実を図った。 ○進路だよりを年間通して発行できた。 △自主的な進路研究を促すツールが不足している。 △生徒の学力と志望校選定のミスマッチを解消できなかった。 △推薦・総合型選抜の時期を見直したが、効果的な運用ができなかった。 △受験の指導において個人差が大きい。	・担任の先生方に向けて、生徒の面談を充実させられるような情報提供に努める。 ・早期からの志望校選定と自身の学力の把握を通して、生徒が自走できるような進路指導を促す。 ・進路指導に関する各会や行事の意義を、全教員間で共有する。 ・進路指導に関する教員間の意識統一を図り、個々の進路実現に対応できるよう、積極的な情報交換の場を設ける。
現職教育	○教職員の資質や指導力の向上を目指すため、研修の体系的・効果的な推進を図る。 ○情報端末機器を使用した授業展開を推進し、先導的な研究を行う。	A	○教科教育研究会、人権研修を開催することで、年間を通して、教職員の資質や指導力向上を目指し、効果的に推進することができた。 ○昨年度に引き続き、各教科において ICT 利活用による授業を展開することができた。また、教職員の協力により研究開発学校の研究を促進することができた。	・職員の研修について、事前に情報を収集する体制を構築し、共有できる環境を整える。 ・実践活動や授業で活用した教材を、HP 上で掲載するなどし、主体的に発信する。 ・校外実施の研修の周知を徹底し積極参加するよう促す。
国際理解	○愛媛大学やNPO法人などの協力の下、諸外国との交流活動に積極的に参加することによって国際理解・異文化理解教育を推進する。 ○持続可能な社会の実現に向けて積極的にボランティア活動等に参加させることによって、社会の一員としての自覚を促す。	B	○愛媛大学国際連携推進機構との連携により、愛媛大学留学生を雇用し、教育活動に参加することで、生徒の国際理解・異文化理解教育を推進することができた。 ○留学生の学校生活のサポート体制は年々強化できている。 ○国際会議をはじめ、SDGs に関する研究活動を充実させることで、持続可能な社会の一員としての自覚を促すことができた。 △学年によって国際会議や研究発表等への参加率に差がある。	・愛媛大学留学生に対して、生徒への対応やガイダンスを行うことで、交流活動の質向上を求める。 ・AFS と協力を密にし、留学生の生活をサポートする体制の更なる充実を図る。 ・WWL 事業終了後（自走2年目）も、これまでと同様の教育活動の展開を目指す。 ・国際会議や研究発表の案内方法の協議を行い参加への促進を行う。

図書指導	○全校生徒の課外活動として、読書とその環境整備推進を図る。 ○図書委員会活動の活性化を図る。 ○課題研究・自主学習等において、積極的な図書室利用の推進を図る。	B	△書籍の貸出数は例年どおりだったが、利用場面をさらに増やすため、ホームルームでの図書室の積極的な活動を進めることができればよかった。 △図書委員の作成した原稿をもとに毎月「図書だより」を発行できた。 ○受験対策としての図書や、課題研究で活用する図書を、教職員・生徒に希望を聞き購入することができた。	・図書委員による「図書だより」の紹介や新着図書紹介を各教室で行うなどして利用者を増やす。 ・各ホームルーム担任に呼びかけ、ホームルームの時間での図書室の利用を促す。 ・図書紹介のポップ等を掲示し、魅力的な図書室作りを促進する。
人権教育	○人権尊重の意識を高め、人権問題解決のための意欲と実践力を養う。 ○互いの人格を尊重し、多様性を認める「共生の心」を育てる。	B	○教職員が協力・連携して、いじめ問題等の解決に取り組むことができた。 △人権・同和教育HR活動の実施にあたり、研究授業の実施を行う機会を提供する必要がある。 △生徒に対するハラスメント事案が発生した。 ○人権委員が中心となって作成した、「人権だより」を発行することができた。また、人権映画鑑賞会でも、鑑賞映画の選定、当日の運営を主体的に行うことができた。	・いじめ問題について、教職員の共通理解や研修を深めていく。 ・体罰や各種ハラスメントを絶対に発生させないという意識を教職員に浸透させる。教職員に対して、年2回の研修を実施するとともに、生徒に対して年3回のアンケート調査を行い防止対策に努める。加えて、定期的にハラスメントに関する啓発資料を教職員に配布し確認する。 ・幅広い教育機会の場で、生徒への的確な言葉かけや指導など、人権教育の向上に努めていく。 ・人権委員会で新しい活動に取り組み、生徒の人権意識を高めていきたい。 ・人権を守り、尊重していくことの大切さ、重みを歴史的過程や世界の状況を知ることで実感していきたい。